

評価対象年度	平成 29 年度
1次評価日(主幹等)	30年3月31日
2次評価日(課長等)	30年3月31日

事務事業評価表(一般事業)

1 事業名	ごみ減量啓発指導事業	コード	81101
-------	------------	-----	-------

2 担当部課	部等 市民環境部	課等 市民環境課	作成者 黒淵 浩人
--------	----------	----------	-----------

3 事業概要	目的体系	基本目標	自然環境と暮らしが調和した、安全・安心なまち		
		政 策	循環型社会の構築	施 策	廃棄物対策の推進
		予算科目	ごみ減量啓発指導事業費	業務委託	一部委託
		実施義務	あり(義務的・標準的事業)	国県補助	なし
		根拠法令	廃棄物処理及び清掃に関する法律(昭和45年法律第137号)		

●事業の内容(D0)

4 事業の概要等		*対象者(誰のため)、意図(どのような状態にしたいのか)
事業の概要(簡潔に)	ごみ減量と3Rの推進を図るため、講習会や学習会を開催、啓発イベントの実施、広報・チラシなどによる意識啓発活動を行う。	
目的	対象者	ごみを排出する市民や事業者
	意 図	ごみ減量と3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進

5 事業の実施内容		*28年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> 衛生事務嘱託員を委嘱し、市民に分別等ごみ減量に向けた指導、啓発を行った。 転入者に対し、市指定のごみ袋各1枚とごみの出し方をセットにした「ウェルカムセット」を配布し、分別及びごみ減量への周知を促した。 ごみ分別等の各種出前講座、焼却施設見学など、きめ細かな学習会を開催した。(15回、733人参加) 「岡谷エコフェスティバル2017」、「もったいない食器市」をララオカヤで開催し、市民に意識啓発を図った。(2,300人参加) その他プラスチック、生ごみの定位置収集事業を継続的に実施した。 生ごみの定位置収集については、生ごみリサイクルの促進と燃やすごみ減量のため、7.8月のみ週2回の収集を実施した。 広報おかやに、3ヶ月ごと燃えるごみ量の推移と過去3カ年の比較を掲載した。 広報おかやに、ごみ処理経費の内訳を掲載し、ごみ処理経費の負担について理解を求めた。 レジ袋削減を目指し、県、諏訪地域の取り組みに参加し、市民の理解を求めた。 事業系ごみ減量のため、市内の事業所に訪問し、ごみが適正に排出されているか確認した。また、湖周行政事務組合で実施するごみ搬入検査に職員が立会い、ごみが適正に持ち込まれているか監視、指導を行った。 		
前年度の課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> 広報誌を通じた意識啓発を図った。 イベントなどの機会を利用し、分別及びごみ減量に対する周知を図った。 市内の事業所に、事業系ごみの取り扱いについてのチラシを配布し周知を図った。 	

6 指標の達成状況		*活動指標:この事業の規模、成果指標:この事業によって得られる住民の満足度			
区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)	
① 活動指標(指標名)	出前講座などの勉強会、施設見学などの事業件数			単位	件数
	実績値	15	15	15	
	*指標の説明	事業の実施回数(サンデーリサイクルは除く)			
② 成果指標(指標名)	ごみ量			単位	Kg
	目標値	15,544,000	15,398,000	14,756,000	14,373,000
	実績値	13,464,758	13,204,605	13,039,142	
	達成度	115.4%	116.6%	113.2%	
	*指標の説明	*総ごみ量			
	*目標値の設定方法の説明	「湖周地区ごみ処理基本計画」の予測値			

7 ア) コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
① 直接事業費	22,042,833	21,974,369	19,747,182	20,432,000
経常経費	22,042,833	21,974,369	19,747,182	20,432,000
臨時的経費	0	0	0	0
* 臨時的経費の説明	* ごみ処理施設立地地域対策交付金			
区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
② 人件費	10,000,000	10,000,000	9,600,000	9,600,000
正規職員の人数(人)	1.25	1.25	1.20	1.20
③ 合計コスト(①+②)	32,042,833	31,974,369	29,347,182	30,032,000
前年度比	#DIV/0!	99.8%	91.8%	102.3%
財源				
一般財源	28,520,833	31,461,369	28,815,182	29,484,000
内訳				
特定財源	3,522,000	513,000	532,000	548,000
* 特定財源の説明	* ごみ処理施設立地地域対策交付金、廃棄物処理業許可申請手数料、リサイクル基金繰入金			
④ 活動一単位あたりコスト	2,136,189	2,131,625	1,956,479	
前年度比		99.8%	91.8%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名		27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
岡谷衛生自治会連合会補助金	件数	1	1	1	1
	金額	129,600	129,600	129,600	129,600
地区衛生自治会補助金	件数	21	21	21	21
	金額	5,024,245	4,985,847	4,954,822	4,980,000
会議等出席負担金等	件数	1	1	1	1
	金額	15,000.00	15,000.00	35,000.00	35,000.00
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア)の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額	5,168,845	5,130,447	5,119,422	5,144,600
	割合	23.45%	23.35%	25.92%	25.18%

* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	成果指標の実績値	前年度比 98.7%
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	成果指標の目標値	達成度 113.2%

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	<p>(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度の燃やすごみの量は前年度に比し減少したが、ごみ減量目標値は達成できていないため、引き続きごみ減量へ向けた対策が必要。 一般家庭から排出された燃やすごみに含まれる生ごみ減量への取り組み。
改善方法	<p>(上記の課題を踏まえて30年度以降に実施する、具体的な改善の内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業系ごみ搬入検査時に職員が立会いを実施し、ごみの適正な持込の指導を強化する。 一般廃棄物収集運搬業者へ、ごみ搬入の際の遵守事項を徹底するよう書面にて通知する。 排出事業者へ事業系ごみの取り扱いについて周知し、ごみの適正な排出を促す。 生ごみの定位置収集については、夏場の腐りやすい時期に効率的に排出できるよう引き続き7、8月の収集を週1回から2回へ増やし、実施する。
改善開始時期	平成30年4月

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による30年度の優先度 *H28年度施策評価表より転記すること	B
-----------	--------	---	---